美術科指導案

研究授業略案　２年　　教科名　美術
日時　　令和４年１０月２０日　校時目
場所　　２年１組　教室
指導者　及川　明子

１　単元名・題材名

『最後の晩餐』にせまろう　～ダ・ヴィンチの表現の意図や工夫を読み取ろう～

２　題材の目標

（１）形や色などが感情にもたらす効果や，遠近法や明暗，人物の描写などの造形的な特徴をもとに，レオナルドやルネサンスの美術を全体のイメージや作風で捉えることを理解することができる。
（２）レオナルドやルネサンスの美術の造形的なよさや美しさを感じ取り，新たな創造を目指した作者の表現の意図や工夫について考えるなどして，美術文化への見方や感じ方を深めることができる。
（３）美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に新たな創造を目指した作者の表現の意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

３　題材計画（全２時間）

時間	題材名及び目標	主な学習活動	個別最適な学びの手立て
１ 本時	『最後の晩餐』にせまろう ～ダ･ヴィンチの表現の意図や工夫を読み取ろう～	ダ・ヴィンチ以外の『最後の晩餐』とダ・ヴィンチの作品を鑑賞し，描かれた人物の描写や空間のなどのダ･ヴィンチの表現を読み取る。	作品を鑑賞し，個々で気付いたことや，疑問に思ったことをグループで共有する。
２	ダ･ヴィンチやその時代の作家達を知ろう	ダ･ヴィンチの生きたルネサンス時代に活躍した芸術家の作品を鑑賞する。	興味を持ち，更に詳しく調べる芸術家を選択する。

４　本時の目標

（１）［共通事項］に示された造形的な視点を豊かにするための「知識」を活用して，ダ・ヴィンチとそれ以外の作家の『最後の晩餐』の比較を通して，ダ・ヴィンチの表現の意図や工夫について考えるなどし，美術文化への見方や考え方を深めることができる。【思考・判断・表現】

５　本時の指導の着眼（個別最適な学びとの関連）

（１）ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』の画像を事前に配布し，何が描かれているかや気付いた点，疑問に思った点などを記入してくることを家庭学習の課題として準備する　【学習時間の個別化】
学習時間の個別化のため，家庭での学習と授業の学習を結び付けて指導を行う。

（２）個からグループの中でお互いに気付いた点や疑問に思った点などを共有し，ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』の表現の意図や工夫について考える　【協働】
個で考えた後に全体で考えを共有し，他者からの気付きを得て自分の考えを深め，広げさせる。

（３）ポートフォリオを蓄積し，指導に生かす　【学習履歴の蓄積】
自分の考え方や学習の振り返りなどをタブレットを通して提出させ，データとして蓄積する

６　学習過程の略案

段階	形態	学習活動	留意点
導入５分	一斉	１　家庭学習の確認をする。	事前に配布したダ・ヴィンチの『最後の晩餐』の画像から何が描かれているかを読み取った生徒達のテキストカードを紹介する。
	一斉	２　本時の学習目標を確認する。 『最後の晩餐』に迫ろう ～ダ・ヴィンチの**表現の意図や工夫を読み取ろう～**	なぜダ・ヴィンチの『最後の晩餐』が世界的に有名な作品とされているのかを読み取っていくことを伝える。 ダ・ヴィンチ以前のボンドーネの『最後の晩餐』と比較することで，表現の意図や工夫を読み取ることを伝える。
展開４０分	一斉	３　『最後の晩餐』がどのような場面を描いているのかを確認する。	１２人の弟子達の中から裏切り者がいて，明日キリストが死ぬことを予言している場面であることを伝える。
	個	４　作品の画像を比較して表現の違いを読み取り，ロイロノートのテキストに記入する。	
	グループ	５　４人グループになり，意見を共有する。表現方法の違いにより，どのような効果があるかを考える。	グループで考えた表現方法の違いによる効果を発表させる。
	一斉	６　ギルランダイオの『最後の晩餐』の画像を鑑賞し，ダ・ヴィンチとの違いを確認する。	１２人の中にいる裏切り者を際立たせるために，１人だけ手前に座らせられていることを伝える。
	グループ	７　ダ・ヴィンチの作品では，手の動きや表情の違いで裏切り者のユダをかき分けていることを確認し，誰が裏切り者なのか考える。	１２人の弟子達の手の動きや表情からどのような会話がされているのか，どのような感情を抱いているのかを考えさせる。
	一斉	８　各グループの代表者がグループで考えたことを発表する。	なぜその人物が裏切り者だと考えたか理由と共に発表させる。
	一斉	９　教師から裏切り者のユダが誰だか説明を聞く。	ユダのみ顔の表情が見えないような体勢になっていることや，他の弟子達に比べて皮膚の色が黒く描かれているなどの表現の違いに着目させる。
終結５分	一斉	１０　本時の振り返りを行う。鑑賞を行い，気付いたことや感想などをロイロノートのテキストに記入する。	